

**混迷を極める、ニッポンの“今”を描いたコロナウイルス小説**  
**五輪、Goto、緊急事態宣言、公文書改ざん、虚偽答弁、院内クラスター**

かいどう たける  
**海堂尊『コロナ狂騒録』9/3発売**

彼らは五輪かいのちか、という二択の問いを、突きつけたのだ。  
 我々はそうした無神経な人々を黙過してきた。  
 我々も医療人のところを折った共犯者だ。

(p301より引用)

「チーム・バチスタ」シリーズの著者、海堂尊氏の最新作『コロナ狂騒録』を9月3日に発売します。昨年7月に発売した第1弾『コロナ黙示録』では、世界に新型コロナウイルスが襲来し、豪華クルーズ船で感染者が発生。1回目の緊急事態宣言発令に揺れるニッポンが描かれました。第2弾となる本作では、首相の辞任から始まり、後任の政府がGotoキャンペーンに励むなか、新型コロナウイルスの変異株が上陸。そのとき浪速で起きた医療崩壊と、五輪の開催・中止の選択を迫られたニッポンを描いています。

「コロナ禍」は天災であると同時に、システムエラーの人災です。  
 そして「五輪」はコロナ対策を間違えたことで人災になりました。  
 公文書を改ざんし、黒塗り文書で事実を隠蔽し、  
 統計のデータをでっち上げる。  
 そんな政府と官僚を前にしたら、  
 史実は物語の中に残すしかありませんでした。

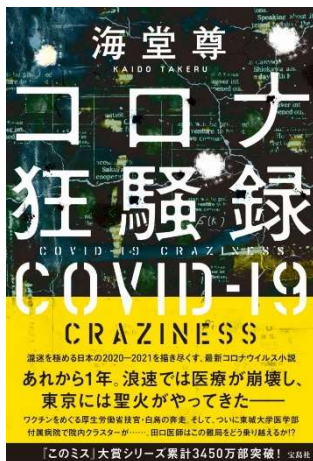



©ホンゴユウジ

ワクチンをめぐる厚生労働省技官・白鳥の奔走。  
 そして、ついに東城大学医学部付属病院で院内クラスターが。  
 田口医師はこの難局をどう乗り越えるか!?

【あらすじ】

2020年9月、新型コロナウイルスは第二波が収まりつつあった。安保宰三は体調不良を理由に首相を辞任、後継の酸ヶ湯政権がGotoキャンペーンに励み、五輪の開催に向けて邁進していた。  
 そんななか、日本に新型コロナウイルスの変異株が上陸する。それまで目先を誤魔化しながら感染対策を自画自賛していた浪速府知事・鶴飼の統治下、浪速の医療が崩壊し始め……。  
 浪速を再生すべく、政策集団「梁山泊」の盟主・村雨元浪速府知事が、大ボラ吹きと呼ばれるフリー病理医の彦根医師や、ニューヨーク帰りの天馬医師とともに行動を開始する。



『コロナ狂騒録』  
 定価：1760円(税込)  
 発売日：2021年9月3日



累計1000万部突破! 「チーム・バチスタ」シリーズ

【著者プロフィール】 1961年、千葉県生まれ。第4回『このミステリーがすごい!』大賞を受賞し、『チーム・バチスタの栄光』にて2006年にデビュー。著書に『ナイチンゲールの沈黙』『ジェネラル・ルージュの凱旋』『イノセント・ゲリラの祝祭』『アリアドネの弾丸』『ケルベロスの肖像』、医師の立場から書いた『トリセツ・カラダ カラダ地図を描こう!』ほか多数。